

2. 暑熱環境及び対策に対する調査

2. 1 国民の暑さ指数の認知度等に関する意識調査

1) 実施概要

9問の質問票を作成し、地域別、年代別、性別の各属性別に100サンプルを確保することとし、計6,400サンプルの回答を確保した。なお、高齢者は前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（74歳以上）の暑さ対策に対する意識を把握するため、65歳以上は65～74歳と75歳以上で50サンプルずつ回答を確保した。

- ・地域：8地域（北海道ブロック、東北ブロック、関東ブロック、北陸・甲信ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、四国・中国ブロック、九州・沖縄ブロック）
- ・年代：4年代（15～29歳、30～49歳、50～64歳、65歳以上）
- ・性別：2パターン（男、女）

実施時期は2022年9月12日（月）～9月13日（火）とした。

2) 調査項目

以下の通り暑熱環境及び対策に対する調査項目を作成した。調査項目は令和3年度業務を以下の視点で絞り込んだ。実際の調査画面は巻末資料1に示す。

【絞り込みの視点】

- ①まちなか（屋外）の暑さ対策に関係する項目である
- ②認知度や意識、生活行動といった国民の意識・行動を把握する項目である
- ③環境省環境安全課で実施している意識調査項目（令和3年度地域における効果的な熱中症予防対策の推進にかかる業務報告書）の内容と同様又は類似の内容でない

表1 調査項目

Q1 屋外活動において暑さを感じる場面
Q2-1 まちなかの移動の際に「暑いと感じる場面及び場所」
Q2-2 まちなかの移動の際に「危険を感じる暑さの場面及び場所」
Q3 暑さに関する情報の入手先
Q4 暑さ指数（WBGT）の認知度
Q5 暑さ指数（WBGT）の情報入手先
Q6 まちなかの移動時の暑さ対策
Q7 環境省「熱中症予防情報サイト」の認知度
Q8 環境省「熱中症予防情報サイト」の情報入手先
Q9 環境省「熱中症予防情報サイト」の利用方法

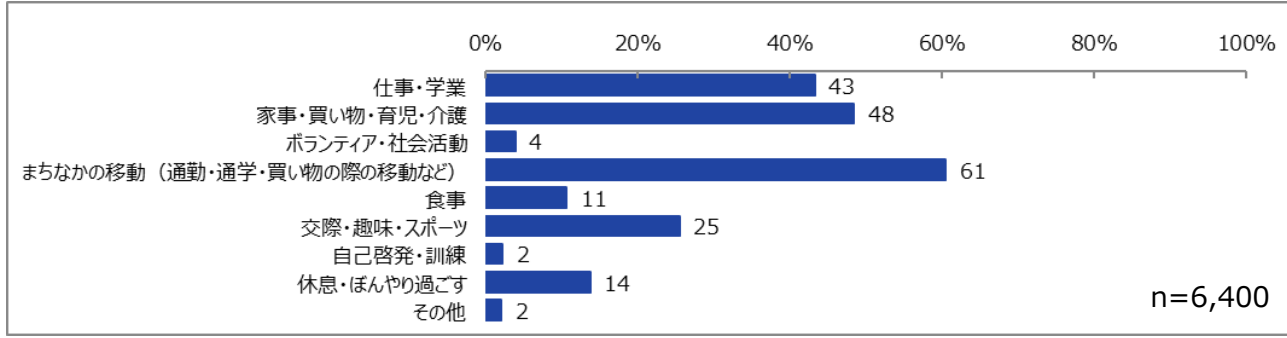
3) 調査結果

各設問の回答状況を以下に示した。

Q1 屋外活動において暑さを感じる場面

屋外の活動について伺います。あなたの夏の日常生活（平日の日中）において、暑さを感じる場面をお答えください。（3つまで）※「屋外」は建物の中・乗り物の中でない場所のことを指します。

最も暑さを感じている場面は「まちなかの移動」で61%だった。次いで、「家事・買い物・育児・介護」で48%、「仕事・学業」で43%だった。



※「その他」の回答：「庭仕事」「家庭菜園」「農作業」等

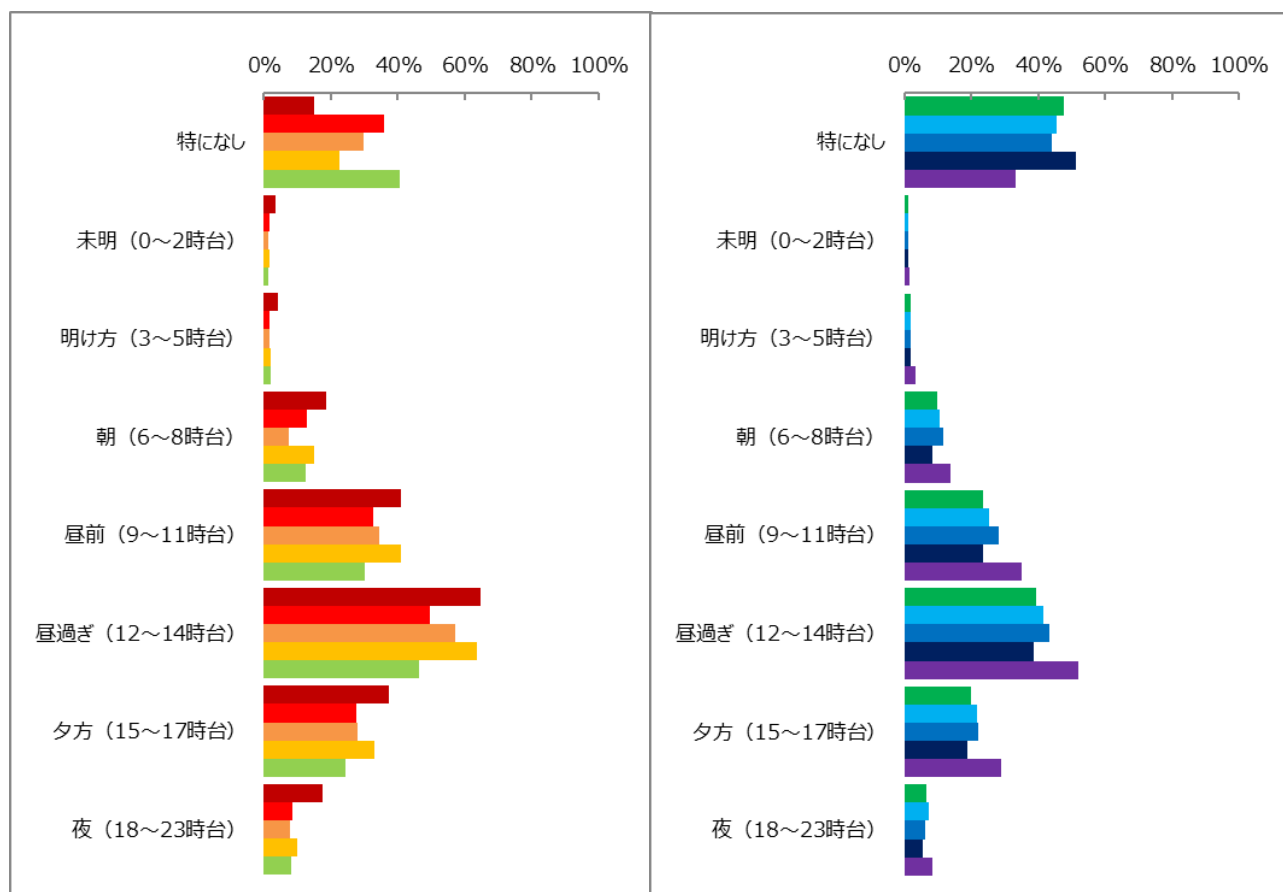
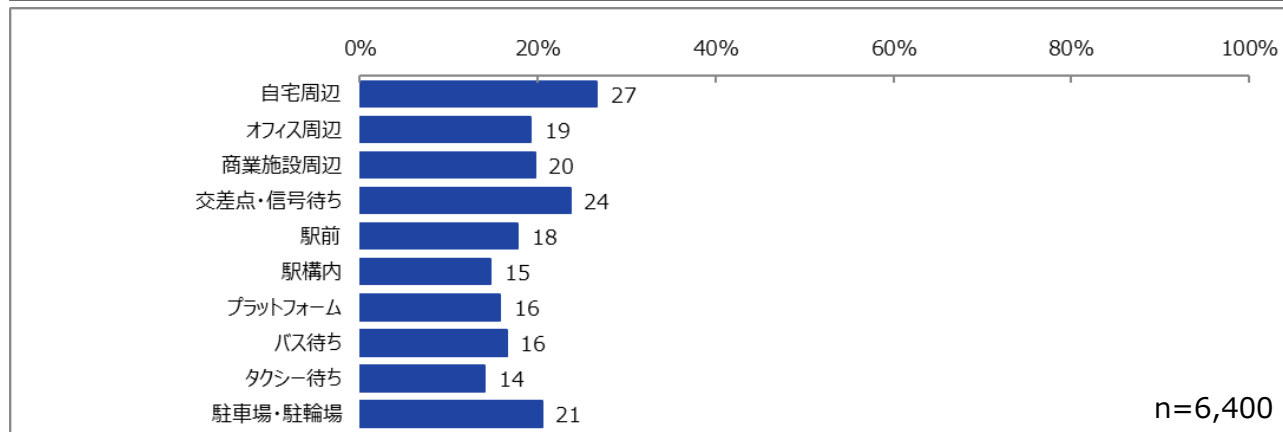
Q2-1 まちなかの移動の際に「暑いと感じる場所及び場所」

「まちなかの移動」の際に、「暑いと感じる場所及び時間」をお答えください。

※「屋外」は建物の中・乗り物の中でない場所のことを指します。

※まちなかの移動に含まれないもの：ランニング、ウォーキング、散歩などの運動に関すること、屋外労働に関すること、公園等の屋外あそびに関すること

最も暑さを感じている場所は「自宅周辺」で27%だった。暑さを感じている時間は昼過ぎ（12～14時台）であり、「自宅周辺」「交差点・信号待ち」「駐車場・駐輪場」で60%を超えていた。



- 自宅周辺
- オフィス周辺
- 商業施設周辺
- 交差点・信号待ち
- 駅前
- 駅構内
- プラットフォーム
- バス待ち
- タクシー待ち
- 駐車場・駐輪場

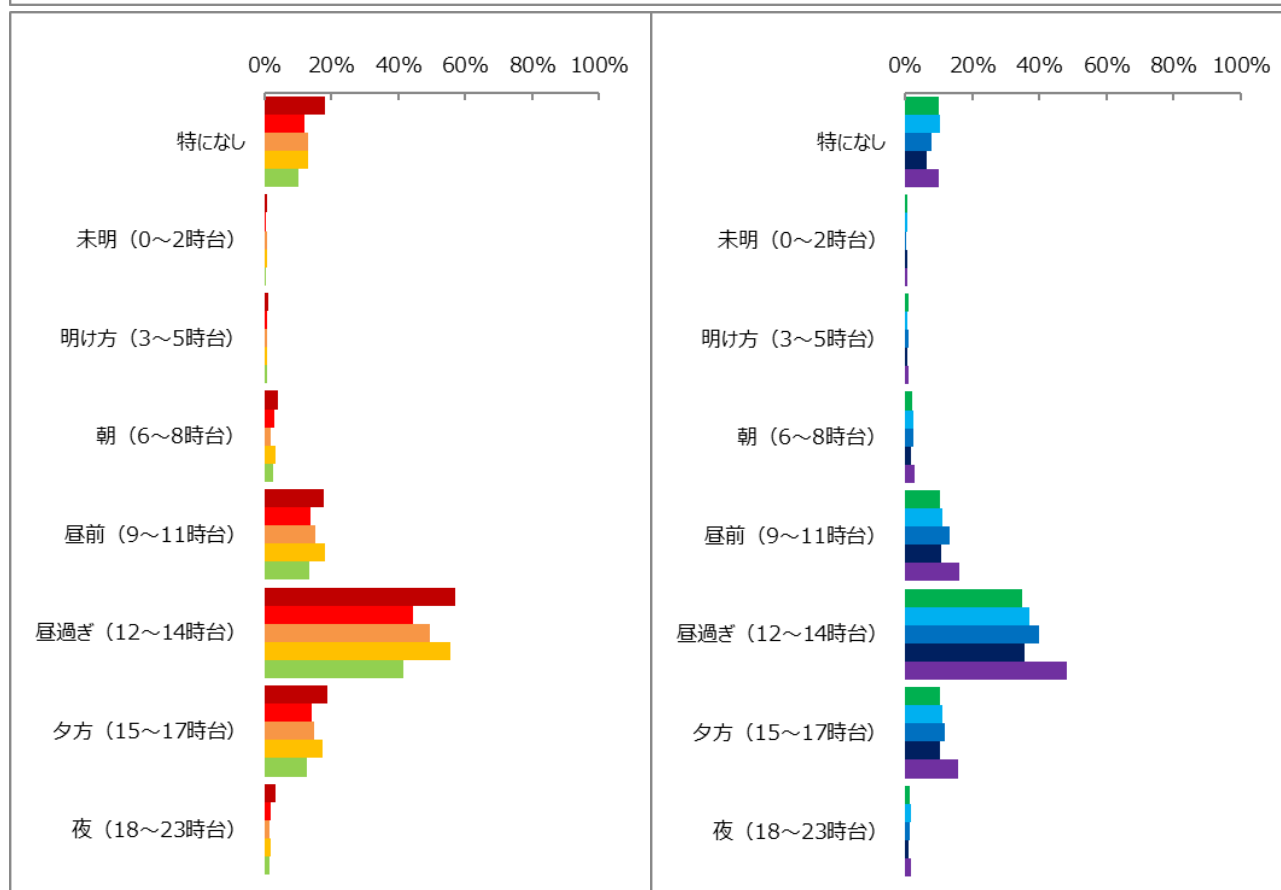
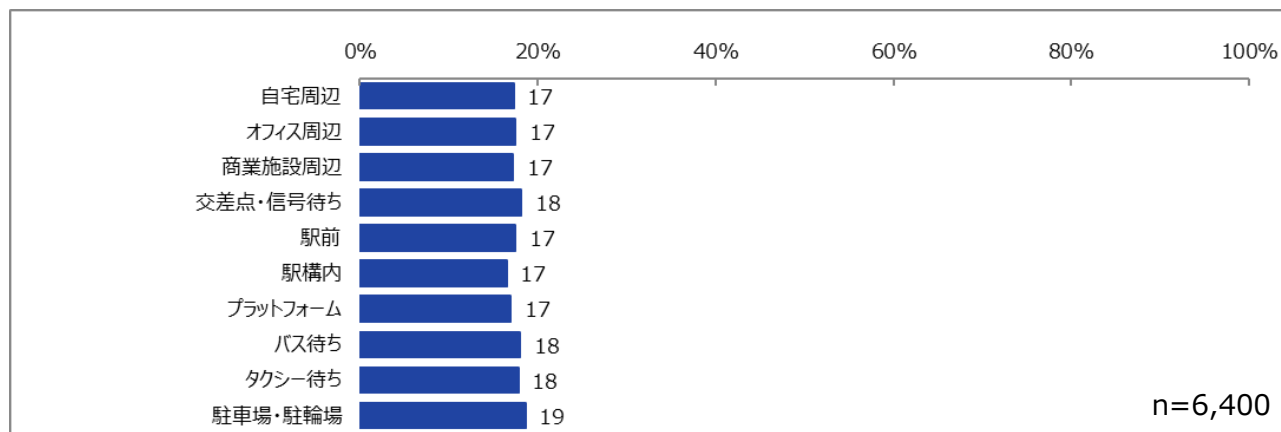
Q2-2 まちなかの移動の際に「危険を感じる暑さの場所及び場所」

前問でお答えいただいた場所の中で特に「危険を感じる暑さの場所及び時間」をお答えください。

※「屋外」は建物の中・乗り物の中でない場所のことを指します。

※まちなかの移動に含まれないもの：ランニング、ウォーキング、散歩などの運動に関すること、
屋外労働に関すること、公園等の屋外あそびに関すること

暑さを感じている場所で危険を感じている割合はすべての場所で2割程度だった。危険を感じる暑さの時間は昼過ぎ（12～14時台）であり、「自宅周辺」「交差点・信号待ち」で50%を超えていた。

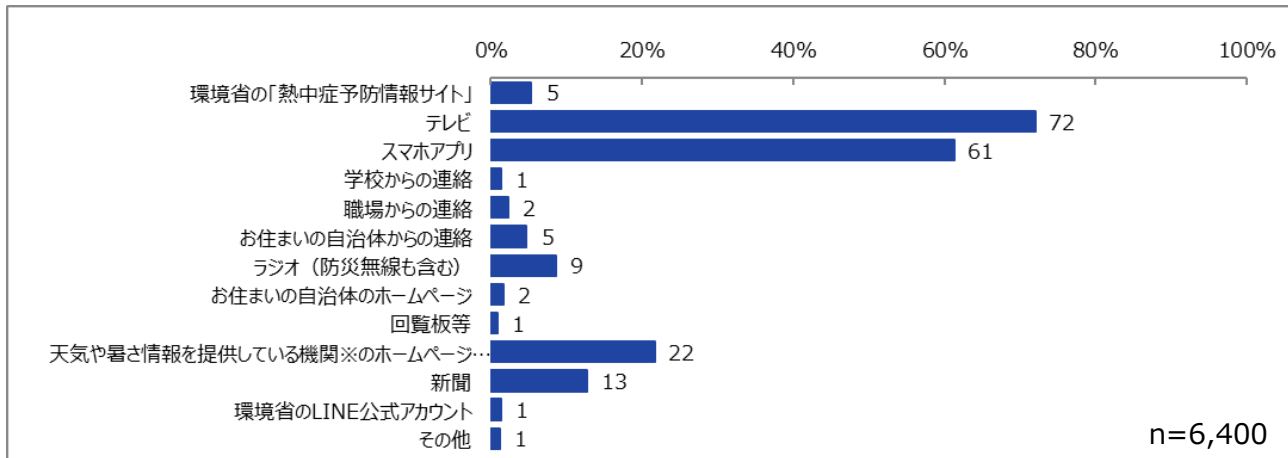


- 自宅周辺
- オフィス周辺
- 商業施設周辺
- 交差点・信号待ち
- 駅前
- 駅構内
- プラットフォーム
- バス待ち
- タクシー待ち
- 駐車場・駐輪場

Q3 暑さに関する情報の入手先

あなたは暑さ（気温等）に関する情報をどこで入手しておりますか。（いくつでも）

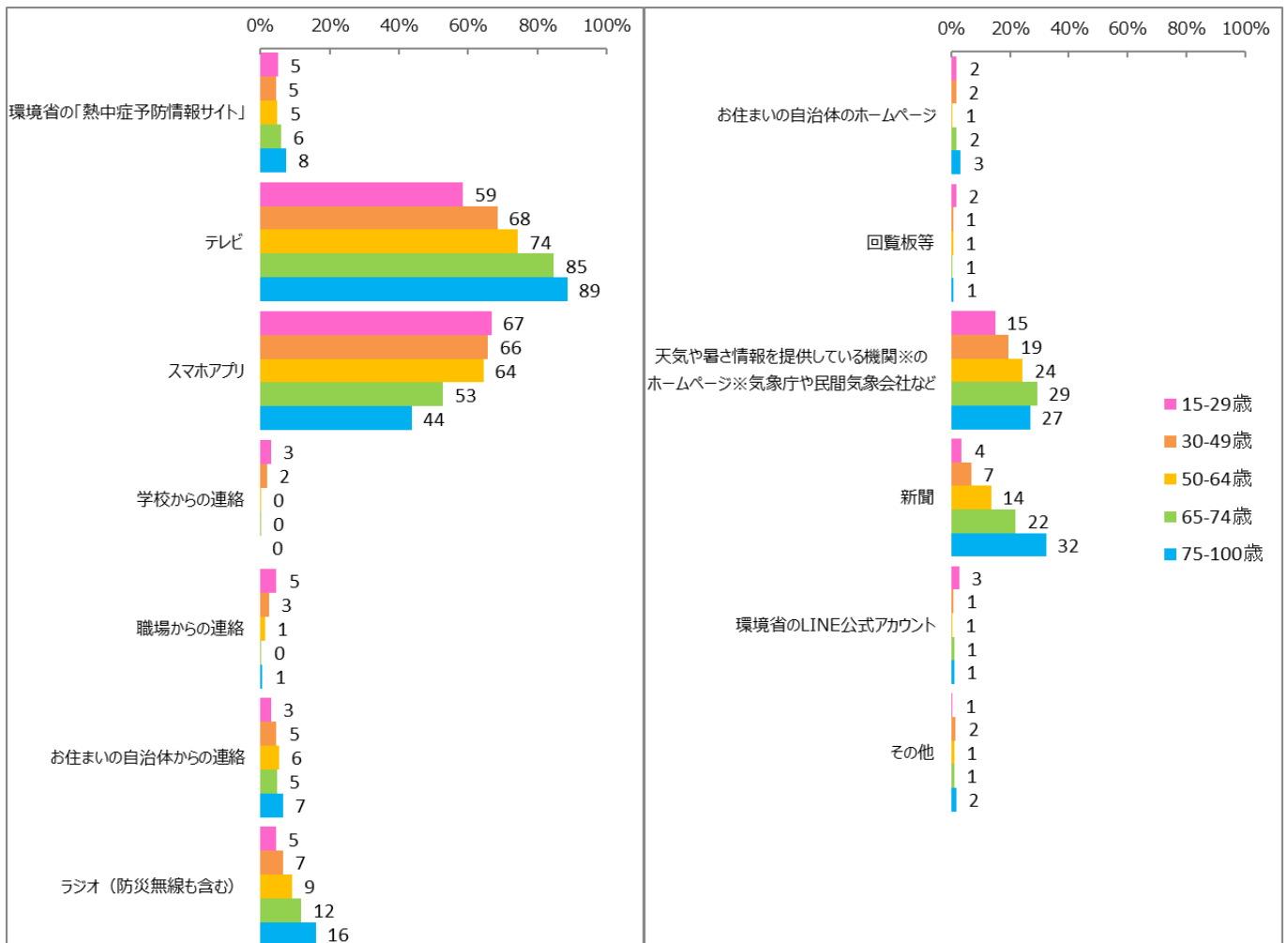
テレビが最も多く72%、次いで「スマホアプリ」が61%だった。環境省「熱中症予防情報サイト」は5%（昨年度は15%）だった。



「その他」の回答：「SNS」「WEB サイト」「自宅の温度計」等

※気象庁や民間気象会社等

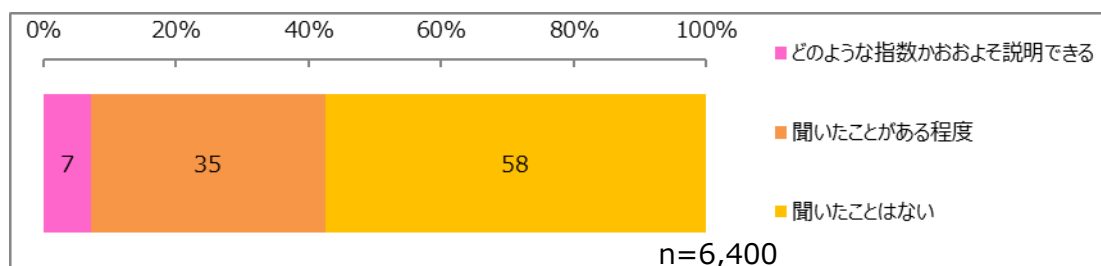
年齢が高くなるほど、テレビ、ラジオ、新聞から情報を入手している傾向にあり、年齢が低くなるほど、スマホアプリから情報を入手している傾向にある。



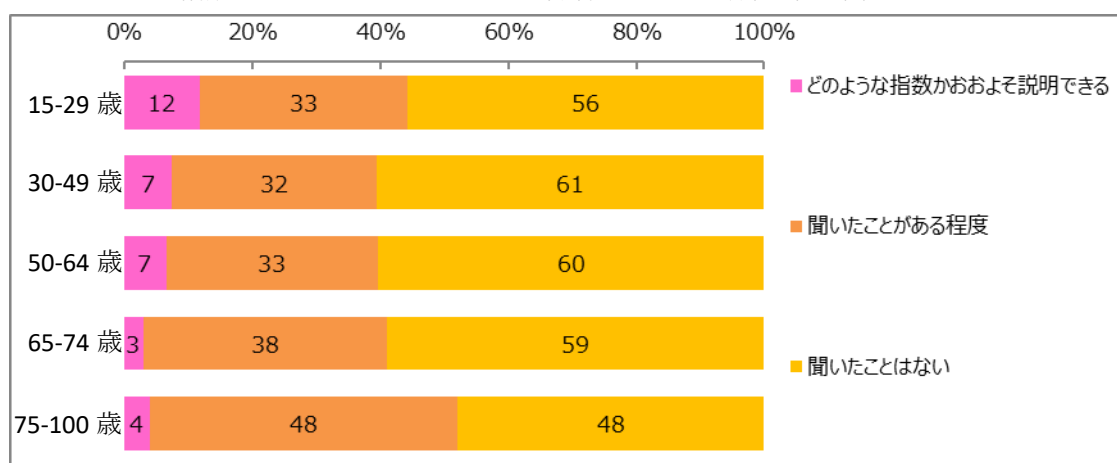
Q4 WBGT の認知度

「暑さ指数 (WBGT)」を知っていますか。

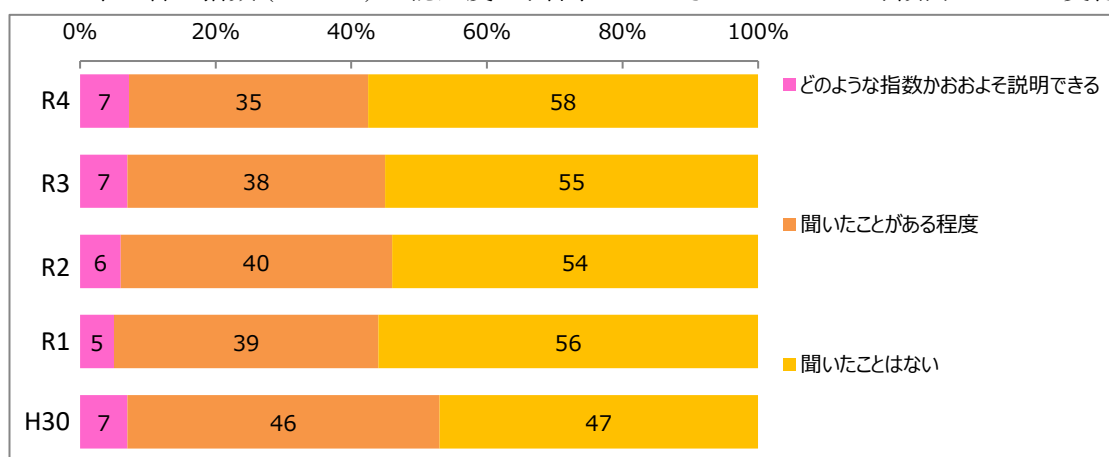
暑さ指数 (WBGT) の認知度は 42% (昨年度は 45%) だった。どのような指数か説明できる回答者は 7% (昨年度は 7%) だった。



どのような指数かおおよそ説明できる回答者は 15~29 歳が最も高く 12% だった。



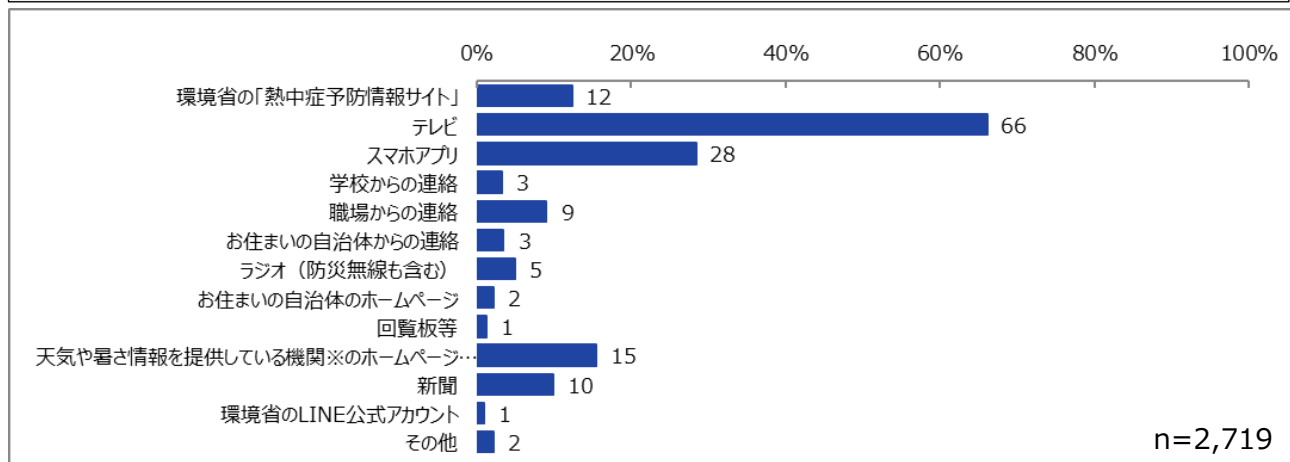
5 年間の暑さ指数 (WBGT) の認知度は、若干ばらつきがあるものの、傾向としての変化はみられなかった。



Q5 「WBGT」「暑さ指数」の情報入手先

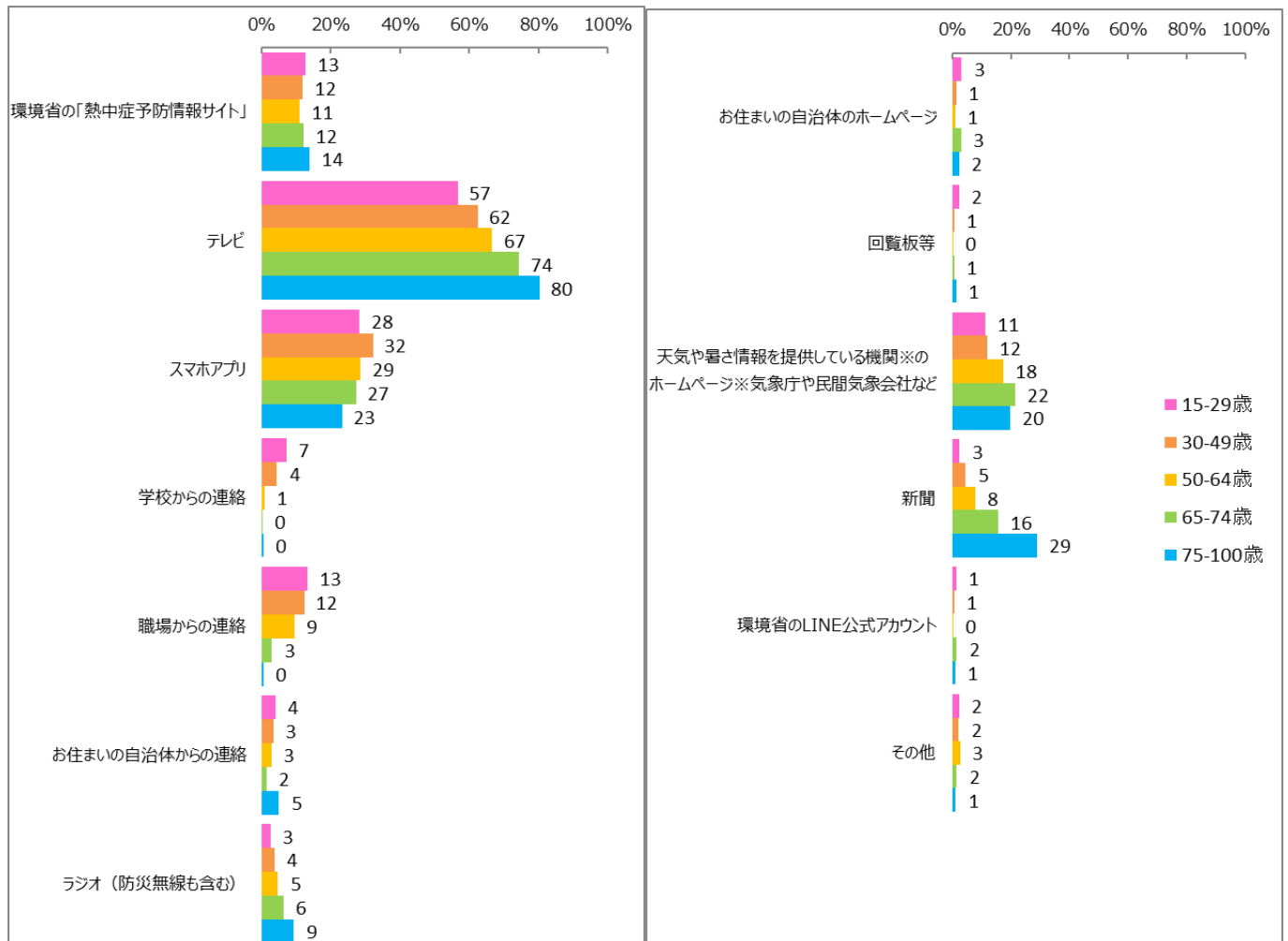
「WBGT」「暑さ指数」をどこで見たり聞いたりしたかお答えください。(いくつでも)

テレビが最も多く66%、次いで「スマホアプリ」が28%だった。環境省「熱中症予防情報サイト」は12%（昨年度は17%）だった。



「その他」の回答：「学校の授業、講義」等
※気象庁や民間気象会社等

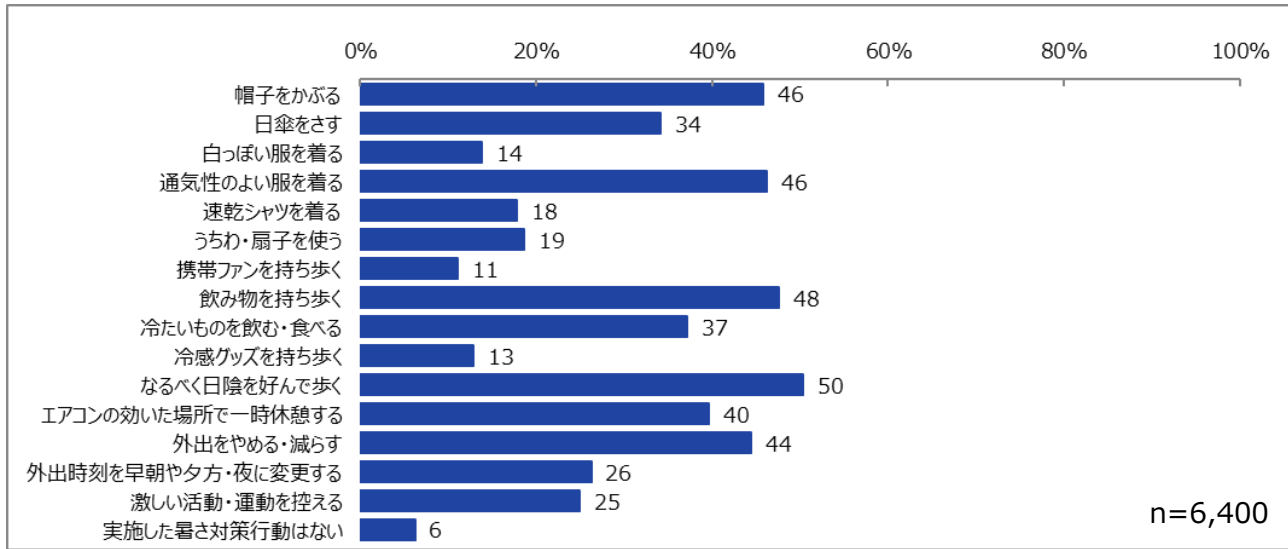
年齢が高くなるほど、テレビ、ラジオ、新聞から情報を入手している傾向にあり、年齢が低くなるほど、スマホアプリから情報を入手している傾向にある。



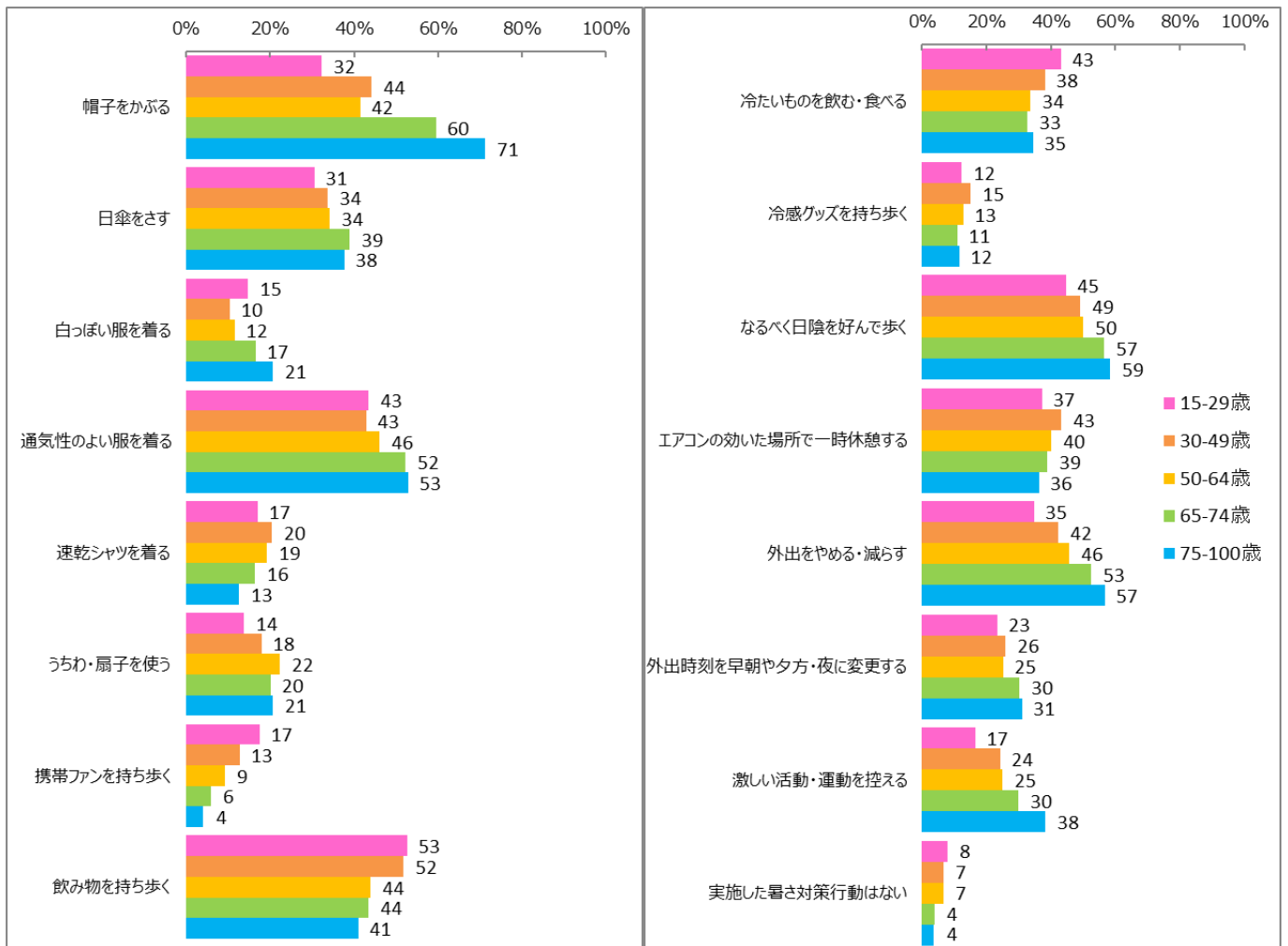
Q6 まちなかの移動時の暑さ対策

まちなかの移動時に実施した暑さ対策行動をお答えください。(いくつでも)

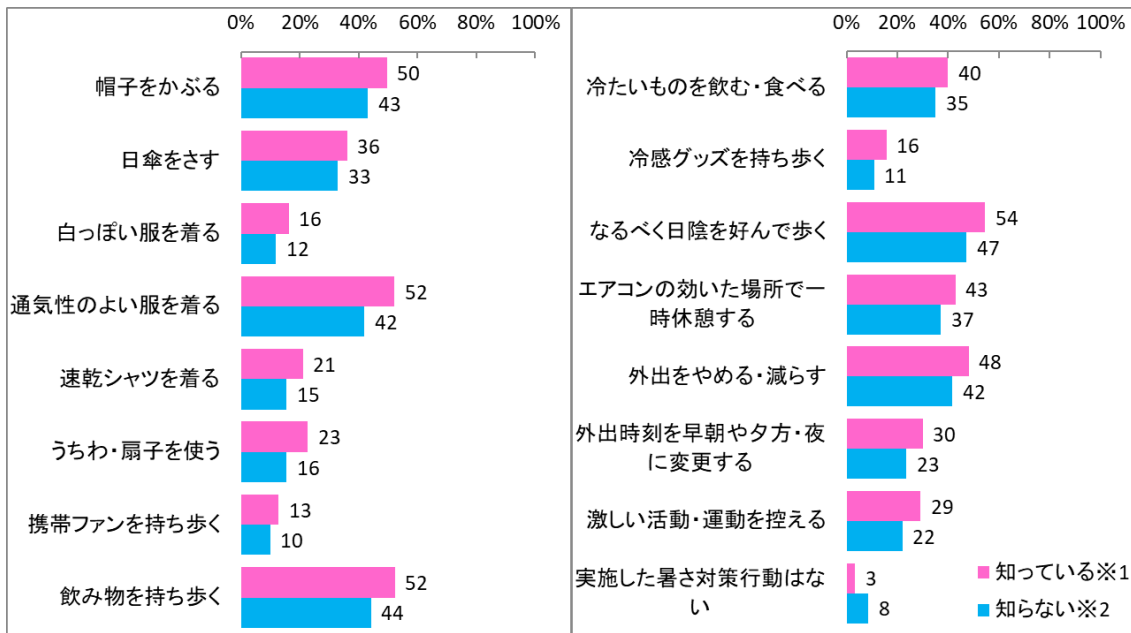
「日陰を好んで歩く」が最も多く 50%だった。40%以上は「帽子をかぶる」「通気性の良い服を着る」「飲み物を持ち歩く」「エアコンの効いた場所で一時休憩する」「外出時間の変更」であった。



年齢が低くなるほど、「飲み物を持ち歩く」「冷たいものを飲む・食べる」傾向にある。



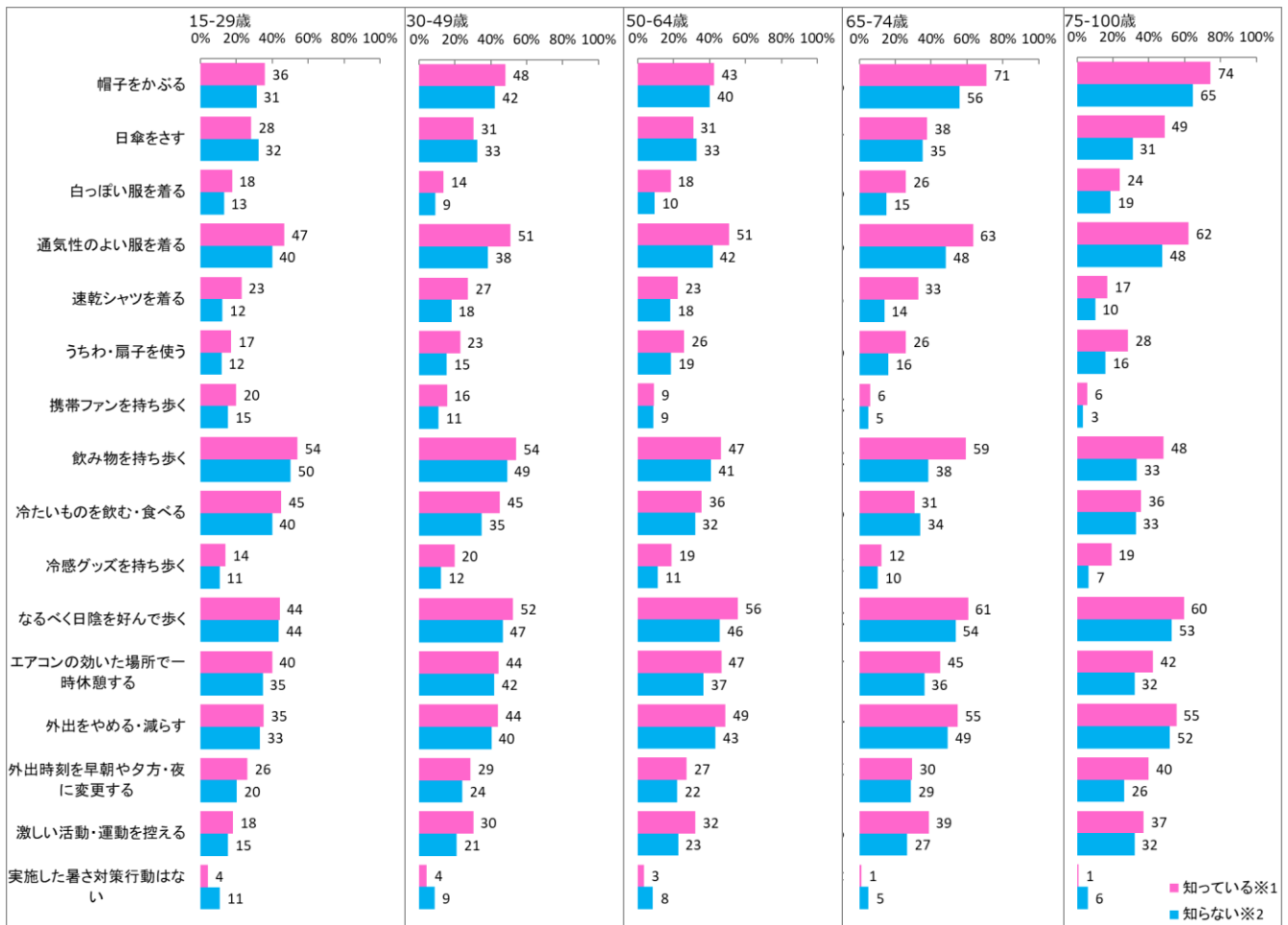
暑さ指数(WBGT)を知っている方は、知らない方より、まちなかの移動時に暑さ対策行動を実施している。



※1：Q4で「どのような指数かおおよそ説明できる」「聞いたことがある程度」を回答した方

※2：Q4で「聞いたことはない」を回答した方

年齢別にみても同様の結果となった。



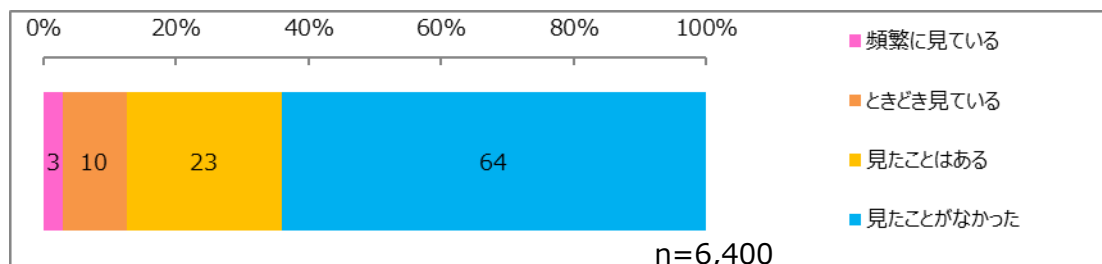
※1：Q4で「どのような指数かおおよそ説明できる」「聞いたことがある程度」を回答した方

※2：Q4で「聞いたことはない」を回答した方

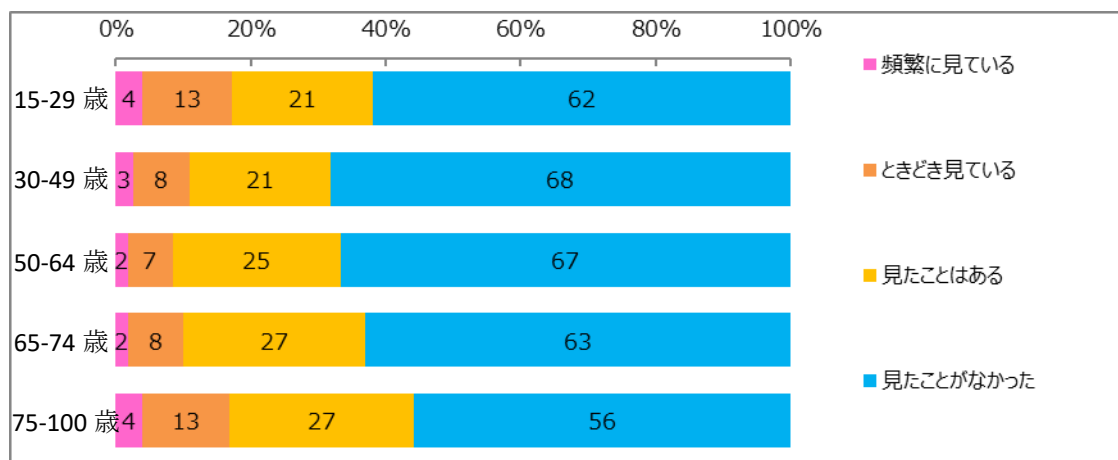
Q7 環境省「熱中症予防情報サイト」の認知度

環境省の「熱中症予防情報サイト」を知っていますか。

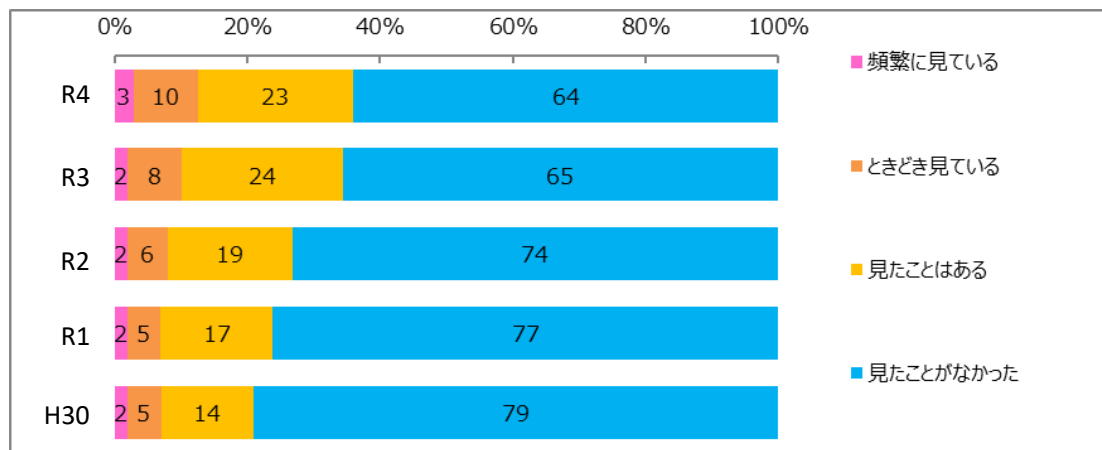
環境省の「熱中症予防情報サイト」を知っていた回答者は36%（昨年度35%）だった。



15～29歳を除き、年齢が高くなるほど、認知度が増加している。



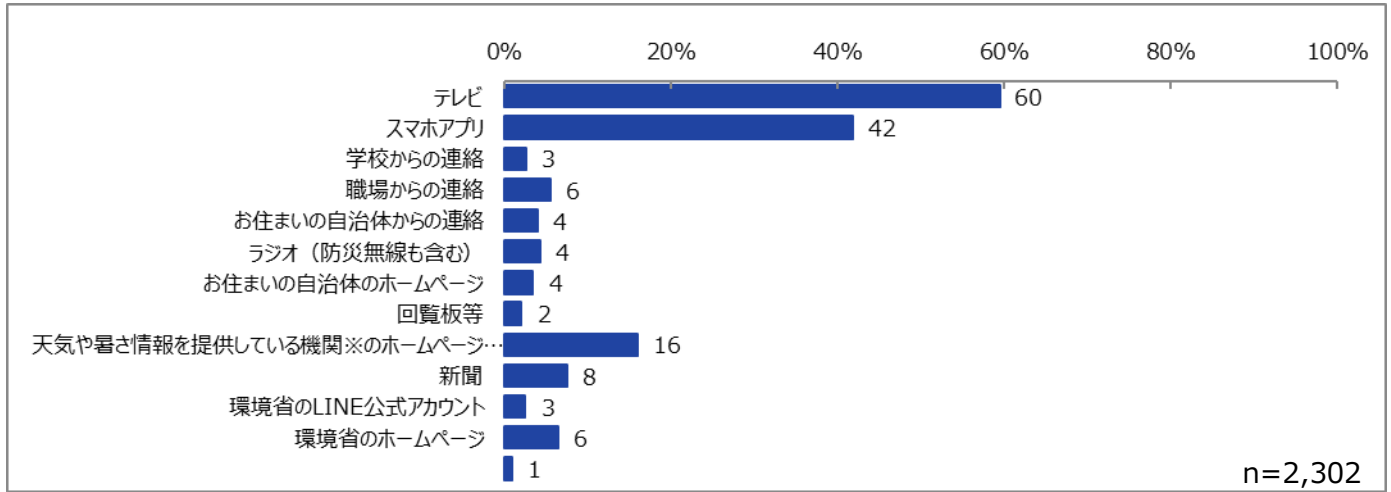
熱中症予防情報サイトを知っている回答者は増加傾向にあり、5か年で1割以上増加している。



Q8 環境省「熱中症予防情報サイト」の情報入手先

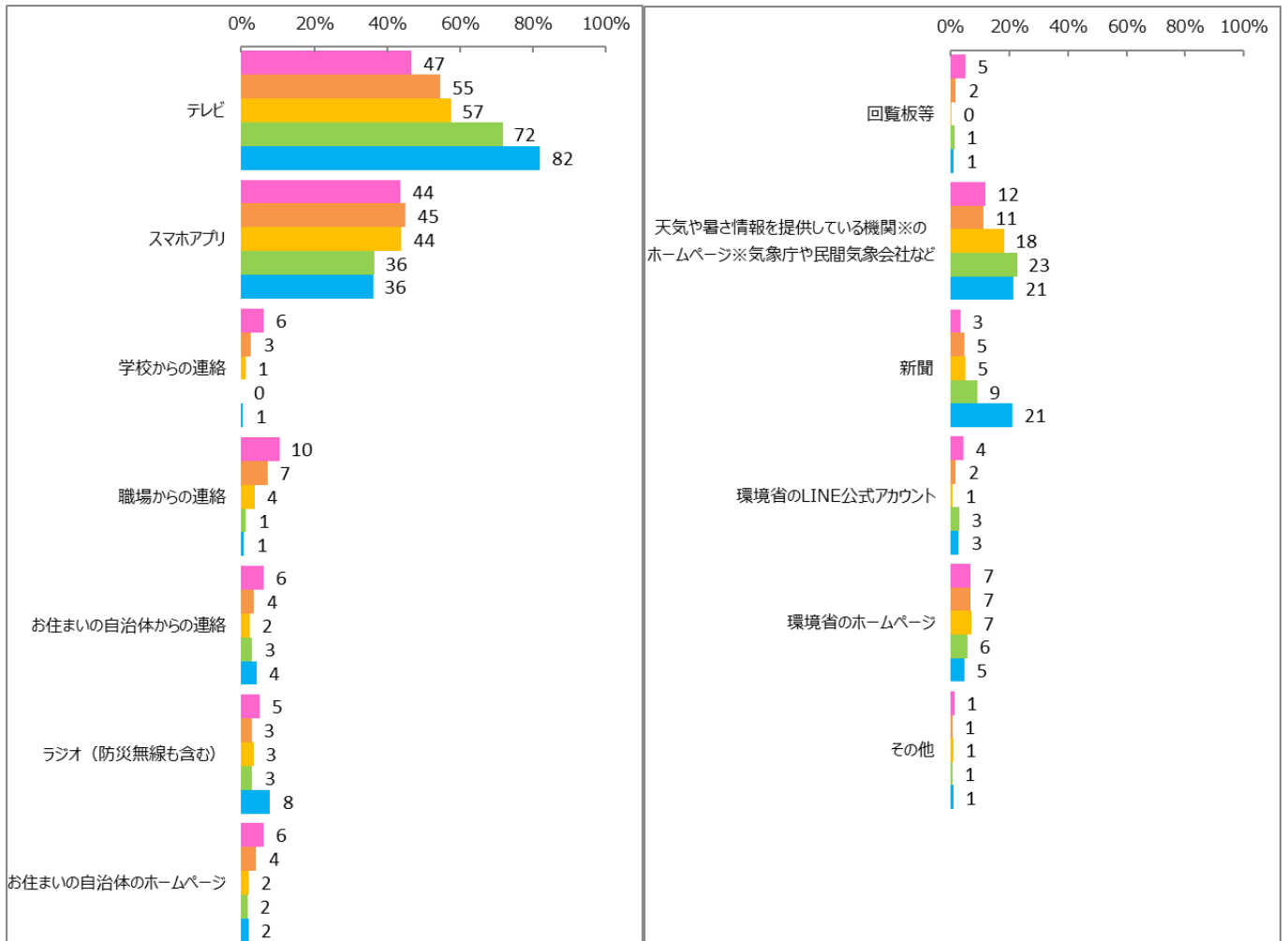
環境省の「熱中症予防情報サイト」をどこで見たり聞いたりしたかお答えください。(いくつでも)

テレビが最も多く60%、次いで「スマホアプリ」が42%だった。



「その他」の回答：「家族からの情報」「知人からの情報」等
※気象庁や民間気象会社等

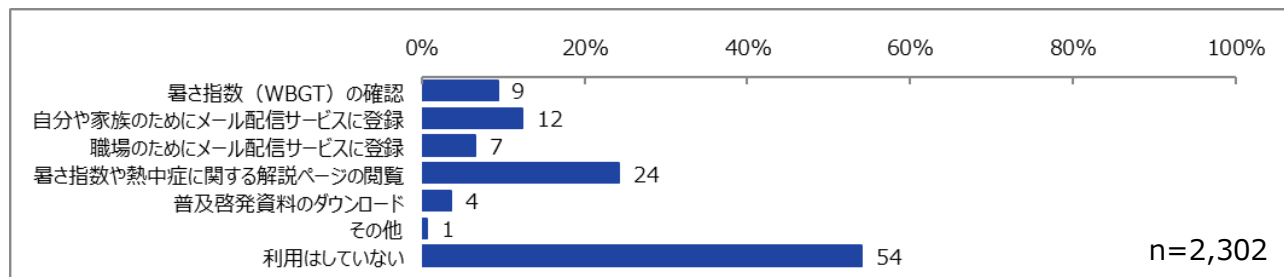
年齢が高くなるほど、テレビ、新聞から情報を入手している傾向にある。



Q9 環境省「熱中症予防情報サイト」の利用方法

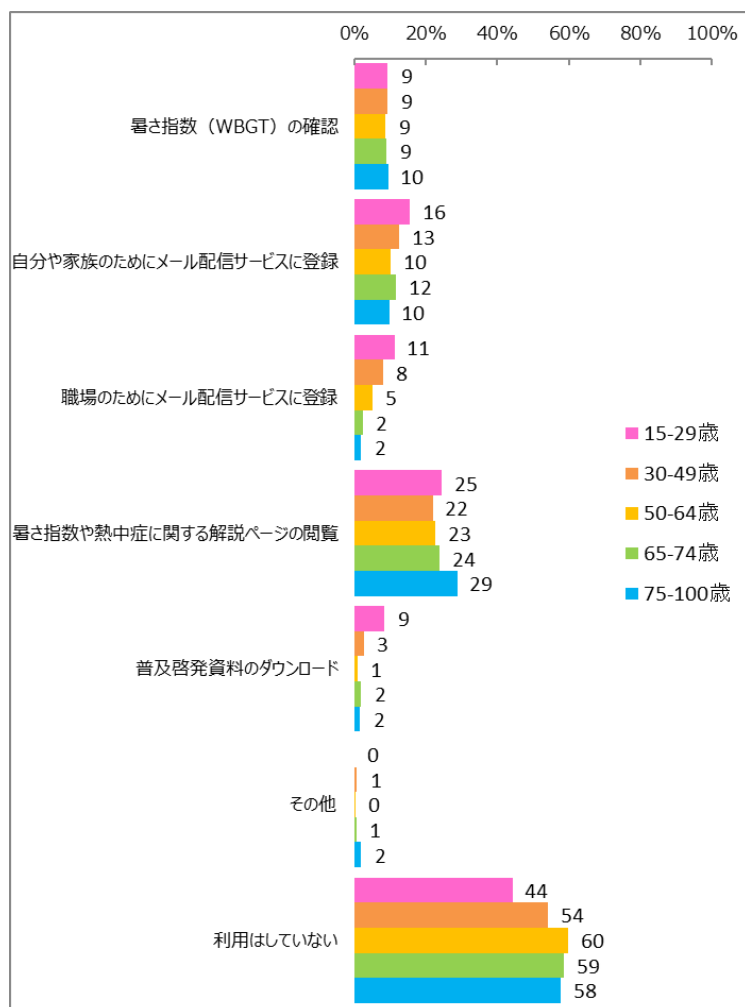
環境省「熱中症予防情報サイト」をどのように利用しましたか。(いくつでも)

「暑さ指数や熱中症に関する解説ページの閲覧」が最も多く 24%だった。「熱中症予防情報サイト」を知っている方で50%以上の方が「利用していない」と回答した。



「その他」の回答：「自身の納得感の醸成」等

15～29歳で「自分や家族のためにメール配信サービスに登録」している割合が高かった。



4) まとめ・考察

(1) 国民が暑さを感じている場所と時間

夏の日常生活（平日の日中）において、暑さを感じる場所はまちなかの移動だった。令和3年度報告書でも同様の結果となっており、国民はまちなかの移動で暑さを感じている。

暑さを感じる場所は「自宅周辺（27%）」、「交差点・信号待ち（24%）」、「駐車場・駐輪場（21%）」との回答が多く、暑さを感じる時間は「昼過ぎ（12～14時台）」の回答が多かった。

特に人通りの多い交差点周辺は、まちなかの暑さ対策を推進していく上で、自治体が主体的に暑さ対策を実施できる場所の一つである。交差点周辺に暑さ対策を実施する上での課題や事例を収集していく必要がある。

(2) 暑さ指数（WBGT）の認知度

暑さ指数の認知度は42%で、5か年の暑さ指数（WBGT）の認知度は、若干ばらつきがあるものの、傾向としての変化はみられず、暑さ指数の認知度向上は課題であると考ええる。

暑さ指数の情報入手先の多くは「テレビ」「スマホアプリ」である。高齢者はこれに加え「新聞」も効果的である。このような媒体を有効に活用し、認知度を向上させていく必要がある。

また、暑さ指数を知っている方は、知らない方より、まちなかの移動時に暑さ対策行動を実施していた。暑さ対策行動と暑さ指数の認知度には正関係があり、暑さや暑さに対する知識の普及を今後とも推進していく必要がある。